

## レオナルド x ミケランジェロ展

三菱一号館美術館（東京・丸の内） 2017.06.17～09.24



レオナルド・ド・ダ・ヴィンチ（1452～1519）は、15世紀のイタリアを代表する芸術家で、画家として才能を発揮すると共に、音楽、建築、科学、数学、生理学、解剖学などの分野にまで関心を広げたために当時は「万能人」と呼ばれていた。

画伯は、「飽くなき探求心」と「尽きることのない独創性」を兼ね備えた人物で、“**史上最高の呼び声の高い画家の一人**”とされ、関心のある領域分野の広さと

深さは空前で、知性と性格は超人的・神秘的・隔絶的であるとされている。

「ミケランジェロ・ブオナローティ」（1475～1564）は、10代から才能を発揮したため「神のごとき」と称された世紀の天才彫刻家で、イタリア盛期ルネサンス期には、画家、詩人などの分野にまで多大の影響を与えた芸術家である。

画伯が制作した《システィーナ礼拝堂・天井画》や《ダヴィテ像》などの数多くの作品は、現存するあらゆる芸術家作品の中でも最も有名なものである。

本展は、本邦初の企画として「トリノ王立図書館」と「カーサ・ブオナローティ所蔵品」を主に「約65の作品」が展示され、芸術家の力量を示す上で最も重要とされ、全ての想像の源の「素描」に秀れた二人の天才を対比している。

### < 見どころ >

レオナルド：《少女の頭部<岩窟の聖母>の天使のための習作》（1483～85年頃）（左）は、最小限の線と陰影によって、形態からその人の気質までもを写しとるという卓越した“デッサン力”が遺憾なく発揮されている作品である。

ミケランジェロ：《<レダと白鳥>の頭部のための習作》（1530年頃）（右）は、繊細な赤チョークのハッキングの濃淡の描写でモデルが下を向き思いに耽った横顔が描かれた作品は、イタリア素描史上最も美しい頭部とされる傑作。

本展覧会は、二人のビッグな巨匠の名作品の素描を間近で対比しながら、鑑賞をすることができるという貴重な催事であるとして注目されている。